

第4回 奄美を写す写真展:審査総評, 出品者内訳等

審査員長 屋田賀史 Okuda Norifumi
Amami Stayle代表, 映像作家

審査総評

第4回の今回は応募総数276点合計117名の方々から多種多様にわたる作品が集まり嬉しい思いである。

私が審査する中で大事にしたのが写真から伝わる音や雰囲気、タイトルとの整合性である、審査中は喧噪音や森の静けさなど色々な音が響いていた。

写真や動画の世界は今やAIが台頭し本物との見極めが難しいが、カメラで撮るといふ行為は作者の思いが映し出された世界でたった1枚の作品となる。これは感情のないAIが追いつけない部分である。

音楽業界ではカセットテープの需要が増えているようだ。自作のオリジナルテープが手元にあり触れる事の出来る喜びが要因らしい。写真業界に当てはめると、それは作品を印刷し質感を味わい額縁に入れて飾って楽しむ事だ。また昔のカメラは撮影枚数制限があった。無限にある被写体の瞬間を有限として大事にシャッターを切っていくのもカメラの醍醐味の一つである。是非、写真を飾りこれからも各自の撮影スタイルを楽しんで欲しい。

内訳	出品点数	276点	入賞	10点
	出品者数	117人	入選・賞候補	22点
			入選	108点
	最年少	7歳	合計	140点
	最年長	89歳		
住所別	島内(奄美大島)	84人		
	群島	8人		
	奄美群島以外の鹿児島県	2人		
	県外	23人		
年代別	10歳未満	1人		
	10代	54人		
	20代	6人		
	30代	11人		
	40代	12人		
	50代	10人		
	60代	13人		
	70代	8人		
	80代	1人		
	不明	1人		